

シクラメンに発生した新病害(ピシウム根腐病)の発見と対策

- 【特徴】**
- ・シクラメンに発生した原因不明のしおれ症状が新病害であることを明らかにした。
 - ・亜リン酸を加えた液肥、培養土の改良、圃場管理により、被害を低減できる。

【活用が見込まれる地域】

シクラメン生産農家

- 【技術内容】**
- ・開花期に株がしおれ、枯死する原因不明の症状が発生し問題となっていた。
 - ・2種類のピシウム菌による新病害であることを明らかにし、「ピシウム根腐病」と命名した。
 - ・亜リン酸液肥処理、培養土の改善、適切なほ場管理により本病の被害が軽減することを明らかにした。

【病気の特徴】



健全株

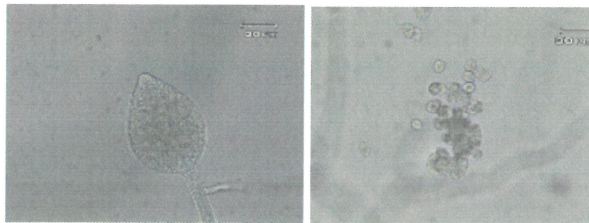
発病株

(株のしおれ)



(根の腐敗)

【病原菌】

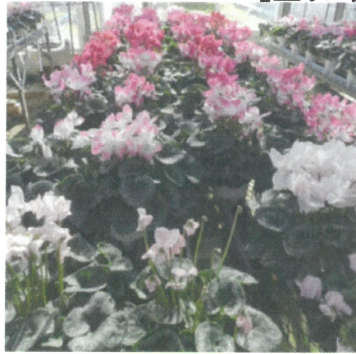


胞子

遊走子

(胞子から放出され、水の中を泳ぎ、シクラメンの根から感染する。)

【亜リン酸肥料の効果】

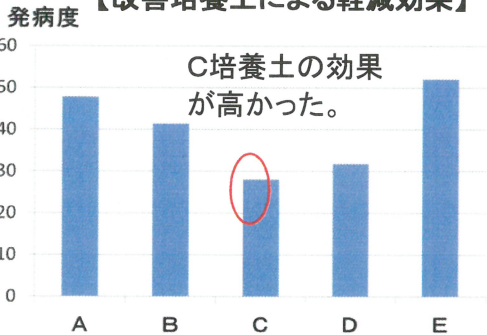


(亜リン酸を加えた場合)



(亜リン酸を加えない場合)

【改善培養土による軽減効果】



C培養土の効果が高かった。

A~D: 改善培養土 E: 従来培養土

【伝染環の解明】

※シクラメンが忙しくない時期にニューギニアインパチエンスを栽培。病原菌は双方の植物間を行き来することを証明した。



(シクラメン)

10月~12月

病原菌の伝染



4月~6月 (ニューギニアインパチエンス)

※双方の栽培が重なる時期に伝染が起こるので、その時期にハウス間を行き来する際は、病原菌を運ばないように手洗い等を徹底する。また、双方で防除の徹底を図る。